

■「心の花」創刊一二〇年記念座談会―■

現代短歌を考える――前衛短歌以降の短歌史における〈新しさ〉とは何か

三枝昂之（「りとむ」発行人）・栗木京子（「塔」選者）

佐佐木幸綱・晋樹隆彦・黒岩剛仁（司会進行）

☆新しいからいい、という価値観はなかった

黒岩（司会進行） 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。これから「心の花」一二〇周年記念の座談会を始めます。本

日の出席者は、「心の花」から、佐佐木幸綱、晋樹隆彦、黒岩。そして、ゲストとして、「心の花」を創刊号から復刻版で揃えて下さっており、信綱研究会のメンバーにもなつて下さっている、三枝昂之さん、以前、「心の

花」の全国大会で「心の花」の女性歌人について講演をして頂いた、栗木京子さんにお越し願いました。

佐佐木 今日「新」ということで皆に話をしてもらいます。話は戦後短歌から始ま

2018・1・28 於・ながらみ書房

テープ起こし 吉田瞳